

講義コード	11C0274200	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	小林 啓祐	開講期	通年
科目名	歴史学					小林 啓祐		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	本講義の主目的は、基本的な歴史学の概念を学ぶことにある。講義では歴史学の主要研究を引用しながら、現代の歴史学をとりまく状況について学んでいきたい。また受動的な学習にとどまらず、各6回ある作業では、講義で学んだことをいかして、歴史学・歴史に関する文章を書くことに取り組んでもらう。作業をこなすことにより、これまで暗記することが多かった歴史について、自分の言葉で表現するという能力を身につけてもらいたいと思っている。								
到達目標	歴史学の基本的な研究史がわかる 多様な歴史主体について理解することができる 歴史について基本的な文章が書けるようになる								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	教科書等で講義の予復習をすることは当然であるが、6回ある作業では、文章を書くという練習もしてもらうため、新聞等の活字に慣れてほしい。(計120時間以上)								
授業計画	<p>【第1回】ガイダンス 講義の進め方を説明します。</p> <p>【第2回】歴史とはなにか E.H.カー著『歴史とはなにか』を中心素材として、歴史に対する基本的な姿勢について学びます。</p> <p>【第3回】社会史の隆盛と歴史学のいま 社会史が歴史学にもたらした影響を中心として、歴史学をめぐる研究状況を概観します。</p> <p>【第4回】資料からみる歴史 歴史学研究の基礎となる、資料論について学びます</p> <p>【第5回】作業1 第2回から第4回で学んだことを復習する作業をしてもらいます。</p> <p>【第6回】資料を読むー資料から描き出される歴史 実際の一次資料を題材にして、資料をよみすすめていきます。</p> <p>【第7回】オーラルヒストリーが伝える歴史 昨今の歴史学は文字資料に限りません。本回では文字に残らない資料について、オーラルヒストリーを中心に学びます。</p> <p>【第8回】環境と歴史 環境問題を考えるいま、自然環境といった問題も歴史として見逃すことはできません。環境や科学技術などについて、歴史学がどのようにとらえてきたのかを学びます。</p> <p>【第9回】時間と歴史 人々が時間というものをいかに意識してきたのか、そして歴史としてどのようにとらえられてきたのかについて学びます。</p> <p>【第10回】作業2 第6回から9回までに学んだことを復習する作業をしてもらいます。</p> <p>【第11回】地域史の位置1 歴史というのは何も国レベルの歴史ばかりではありません。地域史と呼ばれる歴史と、全体史で描かれる歴史の関係性について学びます。</p> <p>【第12回】地域史の位置2 第11回に引き続き、地域史で描かれる歴史がどのように叙述されていくのかについて学びます。</p> <p>【第13回】都市史と農村史 歴史の重層性の一側面として、都市史と農村史という分野を中心として学んでいきます。</p> <p>【第14回】前期まとめ 前期で学んだことを総復習します。</p> <p>【第15回】作業3 第11回から14回にかけて学んだことを復習する作業をしてもらいます。</p> <p>【第16回】交易ネットワークと歴史学 国際的な交易ネットワークによって描かれる歴史像について学びます。</p> <p>【第17回】病気・生死と歴史 歴史学において身体、疾病といった問題、生きること・死ぬことをどのようにとらえてきたかについて学びます。</p> <p>【第18回】女性史の進展 昨今研究が進みつつある女性をめぐる様々な歴史について学びます。</p> <p>【第19回】人口を求める 近年では統計学などとの連携により、既存の歴史学ではわからなかったことが明らかにされてきています。講義では歴史人口学という分野が果たした役割について学びます</p> <p>【第20回】作業4 第16回から第19回で学んだことを復習する作業をしてもらいます。</p> <p>【第21回】家族と歴史 家族と歴史の関わりを、とりわけ日本の社会を基底することとなる「イエ」制度を中心として学びます。</p> <p>【第22回】共同体と歴史 第21回でみた「イエ」と同様、日本の社会に大きな役割を果たしたのが共同体でした。その概念は日本にとどまるものではありません。講義では様々な共同体について学びます。</p> <p>【第23回】比較史という視点 比較史という視点ももたらした変化について、マルク・ブロックを中心にして学びます</p> <p>【第24回】作業5 第21回から第24回で学んだことを用いて、作業をしてもらいます。</p> <p>【第25回】歴史と時代1 歴史の理解は常にその時代の価値観に左右されます。第26回とあわせ、時代と歴史の関係性について学んでいきます。</p> <p>【第26回】歴史と時代2 第25回の続きを行います。</p> <p>【第27回】歴史学の最前線1 2012年現在の最新の研究を紹介するかたちで、今のような問題が歴史学で取り扱われているかについて学びます</p> <p>【第28回】歴史学の最前線2 第27回の続きを行います。</p> <p>【第29回】後期まとめ 前後期でやったことの総復習をします。</p> <p>【第30回】作業6 第26回から第29回で学んだことを用いて、作業をしてもらいます。</p>								
成績評価の方法	6回の作業内容で判断する。作業は教員指導のもと、講義内容の文章化に取り組んでもらいます。適宜ワードやエクセルの使い方の指導なども行います。								
フィードバックの内容									
教科書	『歴史学入門』福井憲彦(岩波書店)2006								
指定図書	『歴史学の最前線』史学会(東京大学出版会)2004、『歴史とは何か』E.H.カー(岩波書店)1962、『戦後歴史学と社会史』二宮宏之(岩波書店)2011、『オーラル・ヒストリー入門』御厨貴(岩波書店)2007、『時間意識の近代』西本郁子(法政大学出版局)2006、『歴史人口学のフロンティア』速水融、鬼頭宏、友部謙一編(東洋経済新報社)2001、『比較史の方法』マルク・ブロック(創文社)1978、『比較史の遠近法』斎藤修(NTT出版)1997、『20世紀日本の歴史学』永原慶二(吉川弘文館)2003								
参考書									
教員からのお知らせ	歴史を単に暗記するものではなく、ちゃんと知識として表現できるようになってもらいたいため、作業では講義で学んだことを文章化してもらいます。								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
その他									